



非文字資料研究センター 新刊のご紹介

首里城と沖縄神社 資料にみる近代の変遷

準備中

- 著者：加藤里織、後田多敦、前田孝和 ※ 50 音順
- 出版社：近現代資料刊行会
- 発売日：2024 年 3 月末日発売予定
- 定価：7,000 円+税
- 内容紹介：

首里城はかつての琉球国の王城であるが、「琉球処分」後には、その「正殿」を拝殿として沖縄神社が創建された。この沖縄神社は、大日本帝国の沖縄に対する宗教政策、同化政策の施設でもある。1945 年の沖縄戦で首里城と沖縄神社は破壊されたが、戦後、沖縄神社は場所を移して再建された。

神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センターでは、2003 年に始まった神奈川大学 21 世紀 C O E プログラムから海外神社をテーマに共同研究を行ってきた。本書は、その研究を受けつぐ「近現代日本の祭祀空間と海外神社」班の研究成果の一部である。

本書では、これまでの非文字資料研究を踏まえ、首里城正殿と沖縄神社に関する写真や図版を約 120 点収録し、首里城が沖縄神社へとその姿を変え、沖縄戦で破壊されるまでを、読者が写真で追うことができるように努めた。

また本書は、首里城と沖縄神社を考えるための資料的前提を提示することも目指し、首里城正殿と沖縄神社に関する基本的な文字資料も網羅的に掲載した。そのほか、解説や文献案内・関連年表なども併せて掲載し、現在「復元」が進められている首里城と、日本と沖縄の関係を検討するためにも必須の資料集となっている。

目次：はじめに

第一章 写真

第二章 尚家資料

第三章 その他関連資料

第四章 図版・地図

第五章 解説

おわりに

図版、関連資料リスト

用語説明

年表

参考文献



沖縄神社「本殿（神殿）」



沖縄神社「拝殿」となった首里城正殿

神奈川大学 非文字資料研究叢書 5 「中国文化大革命ポスターを読む」新島淳良氏寄贈
神奈川大学非文字資料研究センター 文化大革命ポスターコレクション



- 編者：大里浩秋
- 刊行年月日：2024年3月31日（予定）
- 価格：未定
- 出版社：東京大学出版会

目次（仮）

はじめに

第1章 文革ポスターについて

第2章 ポスター紹介—大里浩秋・孫安石・菊池敏夫・成田紅音

第3章 論考・滞在記—田島奈都子・長井暁・平井博二

第4章 コラム

第5章 シンポジウム「中国文化大革命を振り返る」（2019年2月2日開催）
の報告—大里浩秋・加々美光行・矢吹晋・馬場公彦・菊池敏夫

あとがき

資料

非文字資料研究 第27号



- 2023年9月30日刊行

● 内容

センター第五期の研究成果について 中林広一

第五期共同研究活動報告

第1班 『マルチ言語版絵巻物による日本常民生活絵引』 編纂共同研究

第2班 中国近世・近代における生活・風俗の研究

第3班 〈メディア〉と〈身体〉から見る20世紀ヨーロッパのポピュラー・カルチャー

第4班 東アジア開港場（租界・居留地）における都市の発展と建築調査

第5班 「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社

第6班 非文字資料の流通過程における諸問題を解決するための機械学習や
ブロックチェーンなどを応用した基盤技術に関する研究

第7班 戦時下日本の国策紙芝居研究

個人研究論文

記憶の中の「雪」

——民俗知識と個人の主観が混在するライフ・ヒストリーから—— 有馬絵美子

菅江真澄『すみかの山』から探る近世の雪形利用の実相

——真澄の図絵と現代の景観との対比から——

太田原潤

近代沖縄神社神道史と「沖縄県神社創立計画案」成立の背景

明代内府の絵図本と視覚文化について

前田孝和

——西遊記の彩色絵図本を中心に——

松浦智子

書評

李正熙『韓半島華僑史—近代の礎石から日帝強占期までの経済史』

（韓国、図書出版 동아시아、2018年）

孫安石

執筆要項・寄稿について・執筆者一覧・編集後記



主な研究活動

研究会

研究班研究会

2022年度

第3班 東アジア開港場（租界・居留地）における都市の発展と建築調査

第79回研究会 2022年9月22日 対面+Zoomのハイフレックス開催 「中国のSPレコードと上海の流行音楽」西村正男（関西学院大学）

第80回研究会 2022年12月15日対面+Zoomのハイフレックス開催 「中国製ポスターと雑誌の関係」田島奈都子（青梅市立美術館学芸員）

第4班 近現代日本の祭祀空間と海外神社第5班「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社

第2回研究会 2022年9月17日 対面+Zoomのハイフレックス開催

「アジア太平洋戦争下、東南アジアに建てられた海外神社—旧蘭領東印度（現インドネシア共和国）を中心に—」中島三千男（神奈川大学名誉教授）

第6班 戦時下国策紙芝居と大衆メディアの研究

公開研究会 2023年2月28日 対面+Zoomのハイフレックス開催 植民地台湾の紙芝居—国立台湾歴史博物館コレクションからみえてくるもの

第6期準備A班 海とみなとの運河研究—横浜とアジアの運河

第1回横浜まち歩き 2022年6月18日

第6期準備C班 芸術表現における声と身体をめぐる基礎研究

公開講演会 2022年11月15日 対面開催 「薩摩琵琶 琵琶の多様性」後藤幸浩（薩摩琵琶演奏家）

2023年度

第3班 東アジア開港場（租界・居留地）における都市の発展と建築調査

第82回研究会 2023年4月21日 対面+Zoomのハイフレックス開催

「リチャード・ヘンリー・ブラントン：19世紀のイギリスと日本で活躍した土木技師」Geoffrey Morris

第83回研究会 2023年5月19日 対面+Zoomのハイフレックス開催 「太平洋戦争下の上海写真—川合安平が撮影した街並み」川合康夫

第84回研究会 2023年6月23日 対面+Zoomのハイフレックス開催 「近代上海港の発展と黄浦江の航路整備」陳雲蓮（群馬大学）

第85回研究会 2023年7月21日 対面+Zoomのハイフレックス開催

「近代日本美術における『中国趣味』の図象学的検証—女性像の実態と変遷」彭国躍（神奈川大学）

第86回研究会 2023年10月26日 対面+Zoomのハイフレックス開催

「ダイアナ・アプカーと横浜—アルメニア人避難民の救済と人道活動」メリネ・メスロピャン（兵庫県立大学）

第87回研究会 2023年11月30日 対面+Zoomのハイフレックス開催

「横浜から軽井沢へ—太平洋戦争を軽井沢で生き延びた横浜の外国人」高川邦子（現代史研究家）

第4班 近現代日本の祭祀空間と海外神社第5班「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社

第1回研究会 2023年5月27日 対面+Zoomのハイフレックス開催

「久米島宇島島の七獄神社について」菅浩二（國學院大學員）

第2回研究会 2024年1月20日 対面+Zoomのハイフレックス開催

「最後の海外神社 拡大・創建・計画」稲宮康人

「入植者の馬来半島大神宮から南方軍の昭南神社に至るまで」大澤広嗣

第9班 芸術表現における声と身体をめぐる基礎的研究—舞台芸術・古典芸能・現代美術

公開講演会 2023年10月17日 対面 「歌舞伎の稽古—口伝と伝承」中村鷹之資（歌舞伎俳優）

第1回公開研究会 2023年12月9日 対面+Zoomのハイフレックス開催

「関東大震災研究についての報告&討論会」

非文字資料研究センター研究会

12月7日と12月14日 対面+Zoomのハイフレックス開催

「関東大震災から100年 震災復興をふりかえって—東京都復興記念館の所蔵資料と関東大震災100年特別展を中心に—」

現地調査

2022年度

調査テーマ	日程	場所	調査メンバー
戦時下日本の国策紙芝居研究	2022年5月7日～9日	舞鶴市	新垣夢乃
戦時下日本の国策紙芝居研究	2022年5月13日～15日	岐阜・名古屋・静岡	新垣夢乃・大串潤児・松本和樹・原田広・中村裕史
戦時下日本の国策紙芝居研究	2022年6月10日～12日	滋賀・京都	原田広・新垣夢乃
中国近世・近代における生活・風俗の研究	2022年11月8日～15日	金沢・滋賀・京都・名古屋	鈴木陽一
戦時下日本の国策紙芝居研究	2022年11月11～14日	熊本	原田広・新垣夢乃・大串潤児・安田常雄
東アジア開港場（租界・居留地）における都市の発展と建築調査	2022年11月18日	長崎	内田青蔵・姜明采・大里浩秋
東アジア開港場（租界・居留地）における都市の発展と建築調査	2022年10月27日	京都	孫安石
第6期準備C班：芸術表現における声と身体をめぐる基礎的研究—舞台芸術・古典芸能・現代美術	2022年10月28日	静岡	松本和也
中国近世・近代における生活・風俗の研究	2023年1月27日～28日	大分	大木康

〈メディア〉と〈身体〉から見る20世紀ヨーロッパのポピュラー・カルチャー	2023年2月15日～3月1日	ウィーン	角山朋子
中国近世・近代における生活・風俗の研究	2023年2月20日～23日	大阪、京都	松浦智子
「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社	2023年2月21日～25日	沖縄	前田孝和
「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社	2023年2月24日～26日	熊本	加藤里織
第6期準備B班：近現代日本の宿〈ヤド〉の体系化に関する研究	2023年2月26日～28日	千葉県館山	山本志乃・松田睦彦・川島秀一・丸山泰明・常光徹・趙怡
第6期準備C班：芸術表現における声と身体をめぐる基礎的研究—舞台芸術・古典芸能・現代美術	2023年2月28日～3月1日	大阪	水川敬章
「帝国日本」境界の祭祀再編と海外神社	2023年3月2日～6日	久米島	菅浩二
第6期準備A班：海とみなとの運河研究—横浜とアジアの運河	2023年3月7日～9日	北九州	山口太郎
第6期準備C班：芸術表現における声と身体をめぐる基礎的研究—舞台芸術・古典芸能・現代美術	2023年3月16日～17日	岐阜	藤澤茜
中国近世・近代における生活・風俗の研究	2023年3月28日～29日	北九州	中林広一

2023年度

調査テーマ	日程	場所	調査メンバー
近現代日本の祭祀空間と海外神社	2023年4月21日～24日	沖縄	加藤里織
戦時下国策紙芝居と大衆メディアの研究	2023年4月21日～23日	香川	新垣夢乃・大串潤児・松本和樹・小山亮
芸術表現における声と身体をめぐる基礎的研究—舞台芸術・古典芸能・現代美術	2023年5月22日～23日	青森	松本和也
戦時下国策紙芝居と大衆メディアの研究	2023年8月3日	日本女子大	大串潤児・新垣夢乃・松本和樹
近現代日本の宿〈ヤド〉の体系化に関する研究	2023年7月8日～10日	江の島	川島秀一
芸術表現における声と身体をめぐる基礎的研究—舞台芸術・古典芸能・現代美術	2023年7月11日～12日	金沢	松本和也
芸術表現における声と身体をめぐる基礎的研究—舞台芸術・古典芸能・現代美術	2023年8月25日	大阪	水川敬章
芸術表現における声と身体をめぐる基礎的研究—舞台芸術・古典芸能・現代美術	2023年9月8日	大阪	水川敬章
芸術表現における声と身体をめぐる基礎的研究—舞台芸術・古典芸能・現代美術	2023年9月23日	豊岡	松本和也

編集後記

元日早々に能登地方を襲った大地震で、2024年は幕を開けました。被害にあわれた方、未だ不安定な生活を余儀なくされている方々に深くお見舞いを申し上げます。世界に目を向ければ、先の見えない戦争や紛争に巻き込まれ、命の危険にさらされている人たちが後を絶ちません。何気ない日常の暮らしが破壊されていく恐ろしさをまざまざと思い知らされます。

当センターの共同研究でも、そうした人類の負の歴史にあえて踏み込もうという意欲的な研究が少なくありません。各班の研究会や調査報告からは、災害や戦争に直面した人たちがその時代や社会とどう向き合ってきたのか、非文字資料という媒体を通じて具体的に知ることができます。非文字資料研究が果たす役割の大きさを改めて感じます。

コロナ禍の落ち着きとともに、各班の研究活動が活発化しています。研究会や現地調査の一覧だけで2ページが埋まるのは久しぶりのことです。今年度から9班集体となり、春からは新班もスタート。研究成果の近刊も続々と予定されていますのでご期待ください。
(山本志乃)

表紙紹介

1931年上海フランス租界の外灘におけるバターフィールド&スワイア商会の本部と倉庫群（写真はスワイアロンドン本社所蔵）

バターフィールド&スワイア商会（Butterfield & Swire、太古洋行、現在のスワイア・グループ）は1816年にイギリスのリバプール発祥の海運会社で1872年に上海のフランス租界に本部をおくチャイナ・ナビゲーション社（China Navigation Company、太古輪船公司）を設立した。この会社は以降の70年以上にわたり、東アジア、東北アジアの沿岸部、長江流域における国際航路を運営し、各港で大規模な港湾施設を建設した。B&S商会は19—20世紀の東アジアの国際航路と港湾を支配したと言っても過言ではない。国際海運史や港湾の視点からB&S商会に関する研究はもっとされるべきだと願う。

写真について説明する。屋上でイギリスの国旗がはためいているのはB&S商会の上海本部（現存）であり、その左側（南側）は1870—90年代に建設された木骨レンガ造の倉庫群と海関の荷物検査所（現存せず）で、その右側（北側）は1920—30年代に竣工した鉄筋コンクリート造の倉庫群（現存せず）である。それらの建物の前にはB&S商会専用の浮棧橋が並ぶ。黄浦江沿いの埠頭や水面には大勢の人や船が行き交い、港の繁忙ぶりを伺える。（陳雲蓮）